

視聴覚教育

NO. 500

発行日

R07. 10. 14

編集・発行

岡崎市AVL

編集協力

現職研修委員会

学習情報部

これ知ってる!? 情報 I ジオタグ

写真や投稿などのデータに位置情報を記録する機能。災害時には、被害状況の把握や迅速な支援活動に役立てられる。ただし、不用意な使用により、自宅や現在地を第三者に知られるリスクもある。

II 視聴覚教育あれこれ II

● 令和7年度岡崎市教育研究大会

令和7年度岡崎市教育研究大会の学習情報分科会では、「リアルな学びを支える教育DXの推進による、Society 5.0を伸びやかに生きる子供の育成」を主題、「情報活用能力を捉え直し、高めることを通して」を副題に、熱心に取り組まれた13本の実践リポートが報告された。

リポートを見ると、紙吹雪の落ちる速度をデータ化してヒストグラムを学ぶ授業や、テレビ局への社会見学をきっかけとして情報モラルを考える授業など、情報活用能力に視点を置いた実践が報告された。児童生徒の興味や関心を引き出すために実生活と結び付けている授業実践が多く報告されており、主題の「リアルな学び」と結び付いていると感じた。リポートの分類は次の通りである。

- ① 各教科・領域を情報活用能力で捉え直した実践 (5点)
- ② 各教科でICTを活用した実践 (4点)
- ③ 情報モラルの育成を目指した実践 (4点)

尚、「父母と教師の教育を語る会(県教研)」には、次の2名が推薦された。

- ・ 山中小学校 安藤 怜菜 先生

「自信をもって思いや考えを表し、他者との関わりを通して判断を深める児童の育成
— 4年道徳科『善悪の判断』の実践を通して—

- ・ 岩津中学校 青山将太郎 先生

「自分の目的に合ったデータの見方や分析ができる生徒の育成
— 中1数学『データの活用』を通して—

不易と流行

視聴覚ライブラリー 所長 柴田英代

視聴覚ライブラリーが令和6年3月に発行した研究誌「岡崎の視聴覚・情報教育」の第55集には次のように書かれています。「大きな地震が起こると、メディアでは過去の地震災害が取り上げられます。現状と比較することで、地震や被害の規模を検証できるからです。特に、実際の映像は貴重な資料となります。」映像資料の収集や保存は、他の事業に比べると華々しさには欠けるかもしれませんが、しかし、私たちの担う「不易」な活動であると自覚し、今後も大切に続けていく必要があると感じています。他地区では閉鎖の声を聞く視聴覚ライブラリーにあって、小紙は500号を迎えました。第1号の発行は昭和49年で、実に50年以上の歴史をもちます。300号には「ワード」「スキヤナ」「ビデオキャプチャカード」といった今につながるキーワードが並んでいます。映像資料に加えて、小紙をもって微力ながら視聴覚教育についてまとめ、発信してこられたことをうれしく思います。積み重ねた歴史と視聴覚ライブラリーの意義を重く受け止めなければなりません。

一方で、視聴覚機器は発達を続け、ICTと呼ぶ方が適切な場合が増えました。私たちは「流行」の部分も担っていると意識します。昨年度には、おかげさまで映像教材研究会を通してこれまでに制作した大量の自作映像教材を、全小中学校の教室からインターネットを通じて閲覧できるようにしました。DVDを貸し出す必要はなく、利用率の上昇に寄与しています。また、ホタルの光すら撮影できるデジタル一眼カメラや、iPadとの互換性が高い編集用のMacBook Proの導入により、岡崎市のクリエイターを応援する体制を拡充することができました。近年、自然と力の入る事業は情報モラル出前講座です。これまでは、小学生を対象に講師を派遣することが多かったのですが、幼稚園や高校、そして町内会など、依頼元が多様化してきています。よい使い方をしたいという思いが幅広い世代に広がっているようです。期待に応えたいと思います。

岡崎市視聴覚ライブラリーは、これからも岡崎市の視聴覚・情報教育を推進します。常に不易と流行の両面を重視することが求められるでしょう。合言葉は「必要とされる視聴覚ライブラリー」。600号を目指して。

実践報告

What kind of job are you interested in?

福岡中学校 杉崎秀夫

中学2年生の英語科で、不定詞を用いて自分の思いを英文で表現する授業を行った。文法を正確に理解し、教師のアドバイスを基に自ら英文を修正あるいは再構築する力を養うことを目的として、1時間分の学習内容を活用した英作文に取り組んだ。今回のテーマは、職場体験での経験を基にした「10年後の自分へのメッセージ」である。

英作文の提出にはスクールタクトを使用した。これにより、教師は生徒の英文を即座に確認して返すことができた。生徒はアドバイスを基に、



どう書き直せばよいかを自分で考えたり、チームで互いの英文を見合ったりして、不定詞を使った正確な表現に近付くことができた。

繰り返し「to不定詞を使っていると、「It was difficult to make a pop.」と書いた生徒が、「to不定詞を使うことで、こんなに分かりやすい文になるんだ」と感想をもった。不定詞を使った表現の意図に気付いた瞬間だった。少しずつ書いてきた文章をつなげてできた「10年後の自分へのメッセージ」は、生徒一人一人がこれまでの学びを生かし、それぞれの思いが英作文で表現されていた。

アドバイスを基に、自分の英作文を見直し書き直すことで生徒は自分の思いを表現することへの手応えを感じたようだった。情報の収集と整理という情報活用能力を育むことにつながる実践であった。

レッツ・トライ！ICT

今回紹介するICT クイズアプリ「Kahoot!」

特別支援学級では、岡崎ライオンズクラブの招待で動物園を見学する機会がある。この機会を生かし、児童が動物物について意欲的に学習できるとよいと考え、クイズアプリ「Kahoot!」を活用した。「Kahoot!」は、テンプレートをを用いて容易にクイズを作成することができる。これには2つのメリットがある。

1つ目は、競争心や緊張感を高め、学習に取り組むことができる点である。特別支援学級の児童は、普段は自分のペースで問題を解くことが多い。今回は制限時間を設定し、解答時間の短さに応じてポイントが加算されるよう設定した。これにより、早く答えることと正しく問題を理解することの両立が必要となり、児童は集中力を高め競い合いながら、意欲的に学ぶ機会となった。



2つ目は、児童の知識に関する理解度を確認できる点である。クイズを行いながら、補足や訂正がその場で行える。反復練習も効果的で、効率的に知識の定着を促進することができた。

授業後、児童からは、「もっとやりたい」「勉強が楽しい」などの声が聞かれ、受け身になりがちな児童も目を輝かせて参加していた。さらに、図鑑を調べたり、名前を教え合ったりするなど児童が進んで学ぶ姿が見られた。クイズに正解したいという気持ちをきっかけに、学習意欲を高めることができた。

(福岡小学校 阿路川昌宏)

ライオンニューだより

●月報「視聴覚教育」500号達成!

月報「視聴覚教育」は昭和49年に更紙・和文タイプ印刷の1号が発行されました。本号まで50年の時を経て、紙面の大きさ、印刷方式等、形式も少しずつ変化しつつ、長きに渡り視聴覚メディアの日進月歩の発達、その最先端の活用を紹介してきました。また、各種研究会や各学校、社会教育団体の実績報告など、多くの情報を提供してきました。

400号〜500号の間の変更点としては、次の通りです。

・年間の発行回数を若干減らし記事を精査
・「全国自作視聴覚教材コンクール」の結果発表を特別号で発行

・「ふるさと岡崎メディアコンクール」の結果発表を特別号で発行
今後、最新の情報をわかりやすくお伝えすることを心がけて、内容の充実に努めます。

●ライブラリーのお知らせ

夏休み期間中に開催している16mmフィルムの上映会「親子映画会」を冬季にも開催いたします。詳しくは11月号でお知らせいたします。夏季に開催しなかった会場で上映予定です。(市内4箇所の大平市民センター、中央市民センター、六ツ美市民センター、額田センター)

例年夏休みということ、季節的に上映できなかつた冬向けの作品を上映する予定です。今後、多くの方に参加していただけるよう内容や開催方法等の充実に努めます。